

CONTENTS

02-03 防衛事務次官メッセージ/目次

04-05 組織図·任務

06-07 特集 01

災害派遣 能登半島地震 対談

MISSION 政策と職務

08-09 防衛政策の立案

10-11 様々な事態への対応

12-13 情報の収集分析

14-15 防衛力の整備

16-17 安定的な運用のために

18-19 装備政策の展開

20-21 特集 02 次期戦闘機日英伊共同開発 対談

22-23 総合職 (事務系) のキャリアステージ

施設系・装備系技官の職務

24-25 技官の役割

26-27 施設系技官の紹介

28-29 装備系技官の紹介

30-31 特集 03 総理秘書官付 インタビュー

32-35 職員からのメッセージ 海外・留学・出向・地方職員の紹介

36-37 若手職員アンケート・職員の1日

38 ワークライフバランスを支える制度

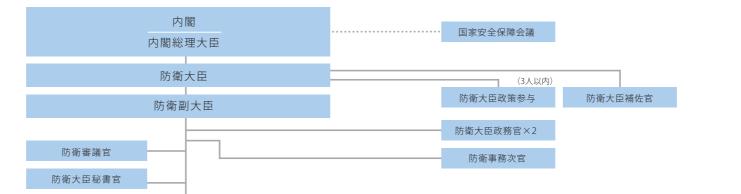
39 採用メッセージ・採用情報



組織図任務

Organization & Mission

安全保障環境を踏まえ、先進的な防衛政策を立案し、それを部隊編成、基盤整備、人事、地元自治体から

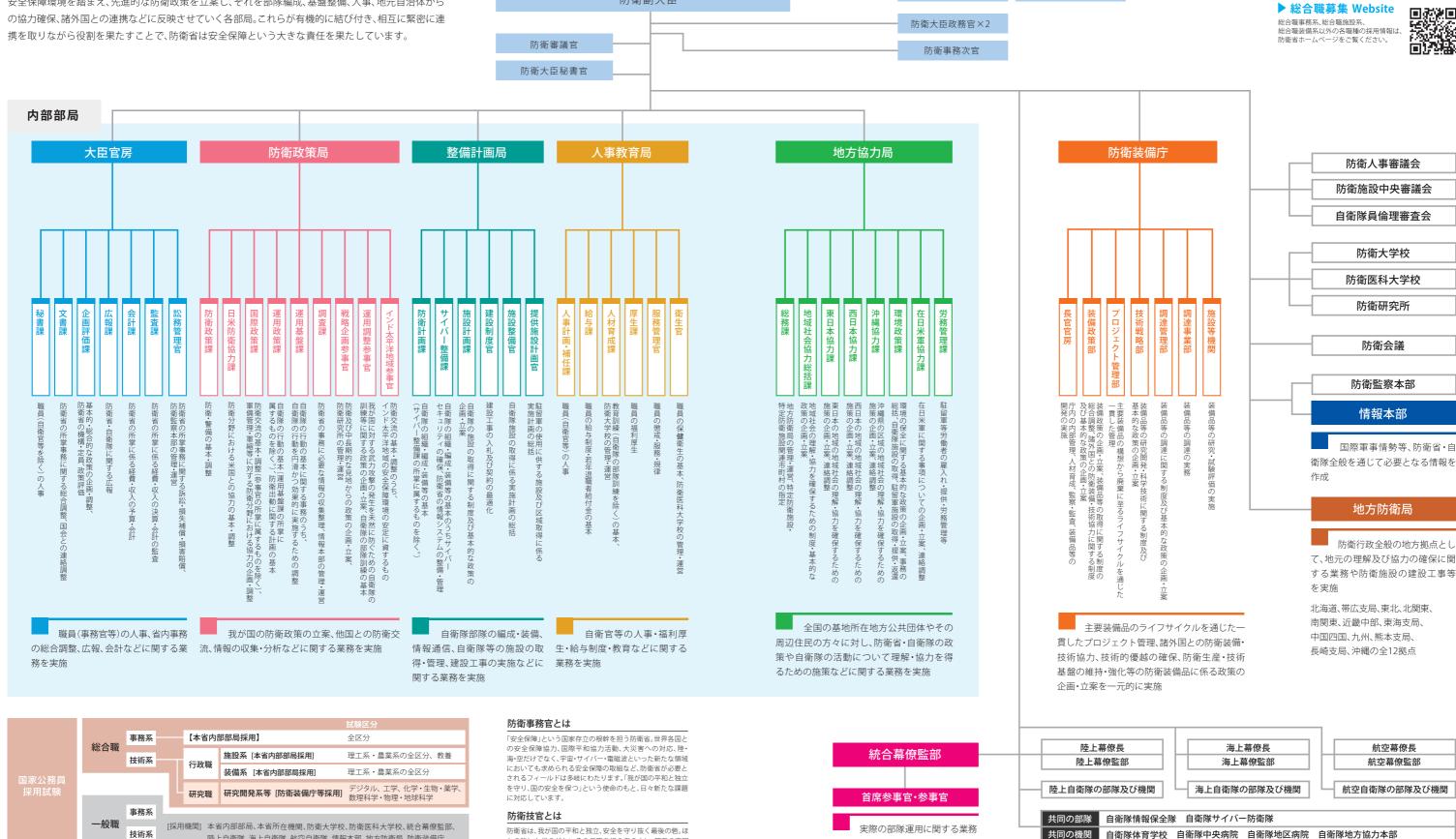


を、対外説明や関係省庁との連絡調

整を含め一元的に実施

国家の独立、 平和と安全を守る





かの誰にも代えがたいその任務を担う者の中に、理系の専門

性を活かし防衛行政に推わる職員、「防衛技官」がいます。防

衛技官は、自衛隊の飛行場・港湾・駐屯地といった「防衛施設」

の整備や戦車・護衛艦・戦闘機等といった「防衛装備品」の取 得、関連する政策の企画・立案を主な任務とし、日々新たな課

題に対応しています。

陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、情報本部、地方防衛局、防衛装備庁

[試験区分] 英語、中国語、朝鮮語、ロシア語、フランス語、アラビア語、ペルシャ語、インドネシア語等

[採用区分] 本省内部部局、防衛装備庁、情報本部、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊

巨大災害において我々ができることは何だろうか。 それは防衛省・自衛隊の存在意義の証明でもある。

特集1

災害派遣

能登半島地震

2024年1月1日、最大震度7の巨大地震が石川県能登半島を襲いました。

防衛省・自衛隊は翌2日に統合任務部隊を編成し、本格的に災害派遣活動を開始

以来、震災の派遣期間としては過去最長となる8ヵ月間、陸海空あわせて延べ約114万人が人命救助や給水支援、

物資の搬送などに当たりました。一連の対応を"裏方"として支えた3人が、震災発生直後を中心に振り返りました



整備計画局 施設計画課 施設政策室 先任部員(施設政策班長) 2003年入省 技術系(施設系)

| 職員A

――能登半島地震の第一報に接したときの状況を教えてください。

職員A:私はそのとき、正月ということで岐阜県の実家に帰省していました。当然、実家の近辺もかなり揺れ、すぐにテレビを確認したところ、被害状況はすぐには分からなかったのですが、これは大変なことになってるかもしれないと思いました。私の所属する施設政策室は自衛隊施設の建設に関する政策立案を担当しており、自衛隊施設が災害等で被害を受けた際に早期復旧のための技術支援を行うERE-Force(エル・フォース=施設整備調査チーム)という組織があります。私はすぐにこのERE-Forceと連絡を取り合って情報の共有を行いました。

職員B:災害派遣班長は大規模な災害等が生じた場合に直ちに出勤する職務であり、私は当時、官署の近隣に設けられた危機管理官舎におりました。私は単身赴任でしたので、テレビを見ながら一人の正月を過ごしていたところ、16時過ぎに、最初の地震である震度5強の地震が発生したとの報道がありました。我々は、震度5強以上の地震が発生した場合、当番は必ず出

勤して対応することとしておりますので、私は 急ぎ危機管理官舎を出て、大きな被害が出てい ないか心配しながら職場に向かいました。その ような中、続けて震度7の地震が発生したこと を知り、これは大きな被害が生じているおそれ があると、一気に緊張感が高まったのを今でも 覚えています。

職員C:自然災害に限らず、ミサイル対応や在外邦人等の安全確保など、緊急事態の対応をするのが防衛省統合幕僚監部であり、365日・24時間、常にその準備ができています。能登半島地震のときも、正月でしたが、当然、必要な待機態勢をとっていました。私もあの日は、地震発生の電話を受けてすぐに出勤しました。宿舎のエレベーターに乗り合わせた他省庁の職員と「被害が少なければいいんですが」と話しながら、タクシーを呼んだのを覚えています。その方が消防の方か警察の方かはわかりませんが、我々と同じように緊急事態の対応に当たるために出勤されたのでしょう。その後、防衛省に到着後、ただちに災害対応に当たりました。

――今回のオペレーションにおける皆さんの 取り組みについて教えてください。

職員A:能登半島の輪島市には、航空自衛隊輪島分屯基地があります。震災ではこの基地が大きな被害を受けたのではと懸念され、ERE-Forceがすぐに現地へ飛んで、建物の状況確認や早期復旧に向けた技術支援等を行いました。輪島分屯基地は日本海防衛の最前線として24時間365日我が国に接近する航空機や飛来する弾道ミサイル等に目を光らせている、国防の重要拠点です。被災したとしても警戒監視機能を止めることは許されません。早期復旧は極めて重要な取り組みです。私はすぐに派遣メンバーの人選など調整を行いました。現地の調査に必要

な機材や食料や寝袋などは私の所属する施設 政策室に備えてありますので、派遣メンバーに 必要なものを持ってもらって、2日の午後に現 地に飛んでもらいました。

職員C: 航空自衛隊は全国28箇所にレーダーサイトを設置し、我が国の安全保障に影響を与える可能性のある外国の航空機や弾道ミサイルなどを監視し、対領空侵犯措置や弾道ミサイル対処に備えています。航空自衛隊輪島分屯基地はそのレーダーサイトの一つであり、Aさんのおっしゃる通り、どんな状況においても通常と変わらないオペレーションが求められるわけです

職員A:もちろん現地では住民の方々の救助活動にも尽力しました。津波警報の発表を受けて約1,000人の住民が避難のために輪島分屯基地にやってきました。基地が甚大な被害を受けた中、現地で隊員たちは、非常用食料や毛布などの必要物資を配布したり、近隣の倒壊ビルで夜を徹して要救助者の救助活動を行ったりと、できる限りの手を尽くしました。

職員C:迅速な災害救助を実施することは当然 のことと言えば当然ですが、自らも被災した中



統合幕僚監部運用部 運用第2課 災害派遣班長(1等陸佐) 2005年入省 陸上自衛隊 職員B

で当たり前のことを当たり前にやるというのは、決して簡単ではありません。素晴らしい対応だったと思います。

職員B:私は防衛省統合幕僚監部の災害派遣班 長としてオペレーションルームに詰め、防衛大 臣や統幕長等に対して部隊の活動状況を適時 適切に報告するなど、防衛省・自衛隊の行動指 針の状況判断に関わる業務を行いました。何し ろ巨大災害でしたから、様々な情報が五月雨式 に飛び込んできますので、その整理は重要なこ とでした。同時に部隊等に対して、総理・防衛大 臣・統幕長の企図を適切に伝達する役目も担い ました。さらに関係省庁との調整業務にも当た りました。自然災害への対応は、地元自治体に おいて行われますが、これほどの大災害となる と政府が自治体をしっかり支援しなくてはな りません。そのために我々は上から下、下から 上の情報伝達を正しく行うと同時に、関係省庁 という横の伝達も行いました。災害時、人命救 助のタイムリミットは72時間と言われており、 できるだけ多くの命が助かることを願いなが ら業務に当たりました。

職員C:今回は能登半島の独特の地形によって、 発災当初から、多くの車両や隊員を派遣することは困難でした。そうした厳しい状況の中でどのように部隊を動かしていくか、プロ中のプロであるBさんたちが指示を伝えていくわけです。巨大災害と一言で言っても、東日本大震災の場合は津波と原子力災害、熊本地震の場合は激しい余震、能登半島地震は独特の地形による道路の寸断と、特徴はすべて異なりますので、我々にも状況に応じた柔軟なオペレーションが求められます。その作戦が円滑に実行されるよう、意思決定者である総理を始め、関係者に正しい情報をお伝えすること等が私の任務です。より具体的には、部隊の取り組みを一般の方にもわかりやすいよう整理し、大臣の記者



SPECIAL INTERVIEW 01

統合幕僚監部 首席参事官付 総括班長 2008年入省 事務系 職員C

会見用の原稿を書いたり、瓦礫の山で動きが取れない中、迅速に救援部隊を送るため、自衛隊の陸海空それぞれのヘリコプターを統合運用する際の命令を作成したり、米軍との各種調整といった業務を担当しました。

一一今回の災害派遣を振り返って、防衛省・自衛 隊の存在意義をどのように受け止めましたか。

職員C:自衛隊は平素から有事に対応するための訓練を行っており、こうした大規模災害の際も自己完結性を持って対応できることに意義があると思います。保有している装備品も航空機や船など多様で、今回は道路が寸断されていたことから、エアクッション艇で砂浜に乗りあげて車両を下ろし、道路を切り拓きながら進んでいきました。また、警察や消防のレスキュー隊員を航空機で輸送したり、電力や通信の復旧のためにNTTの職員を輸送するなど、保有する装備品を最大限に活用できました。こうした点も防衛省・自衛隊ならではの活動だったと感じています。

職員B:自衛隊の主たる任務は我が国の防衛で

すが、災害派遣も重要な任務として位置付けられています。今般、災害時における自治体や国民からの自衛隊に対する期待は、極めて大きいことを改めて実感しました。自衛隊による災害派遣は国民の生命・財産を守ることに直結し、災害時に自衛隊がその任務を完遂できる組織であることを国民に認識・理解いただくことは、安全・安心の観点からも重要であると考えています。

職員A: 我々施設グループは被災地の方々を直接救助することに関わっているわけではありませんが、輪島分屯基地の復旧の支援の他、民間空港である能登空港に自衛隊機を降ろすための技術支援を行っており、こうしたことで、災害派遣活動や地元の復旧活動に貢献できたのではないかと自負しています。

職員C:私は阪神淡路大震災で被災し、自衛隊の活躍を目の当たりにしました。事務官を志したのは、より早く確実に、自衛隊が助けを求める方々のために行動できるよう、自らの手で制度をつくりたいと考えたからです。我々事務官は陸海空それぞれの特徴を把握しながら、横串を刺すように自衛隊のマンパワーや装備品の最大活用を目指すことが仕事であり、そのダイナミックさは学生の皆さんにもぜひ知っていただきたいと思います。

職員B:現地部隊が被災者の皆さまに寄り添ってひたむきに活動している姿は、同じ自衛官として尊敬に値するものです。自分自身も同じ組織の一員であることの誇りこそ、防衛省・自衛隊で働く醍醐味でしょう。

職員A:私は土木工学を専攻しましたが、防衛施設というスケールの大きなものづくりや制度づくりに関われるのは大きな魅力です。国民生活の基盤を担うものとして、真面目に、前向きに、かつ柔軟に仕事に取り組める方をお待ちしています。

06

使命感を胸に英知を結集し、 我が国の防衛政策を立案 MISSION 刻一刻と変わる国際情勢を踏まえ、 自衛隊が国際社会で果たすべき役割や将来を見据えた中長期的な戦略など、 様々な角度から議論を行い、防衛政策の企画・立案を行います。

我が国の 安全保障政策 の立案

同志国

との連携

- ●我が国防衛の基本方針を考える
- ●相手の能力と新しい戦い方に 着目した防衛能力の抜本的強化
- ●国全体の防衛体制を強化
- ·国家防衛戦略

日米同盟による 共同抑止•対処

- ●日米同盟の抑止力・対処力の強化 により、日米の意思と能力を顕示
- 日米安全保障条約
- 日米防衛協力のための指針

●地域や各国の特性等を考慮した、

- 多角的・多層的な防衛協力・交流
- 円滑化協定(RAA) 物品役務相互提供協定(ACSA)
- 共同訓練・演習
- ·能力構築支援

Tips:防衛力と脅威

脅威は能力と意思の組み合わせで顕在化しますが、他国の意思を外部か ら正確に把握することには困難が伴います。

戦後、最も厳しく複雑な安全保障の中で、自国を守るためには、力による 一方的な現状変更は困難であると認識させる抑止力が必要であり、相手 の能力に着目した自らの能力、すなわち防衛力を構築し、相手に侵略する 意思を抱かせないようにする必要があります。





2024年入省 技術系(装備系)

国の安全を能動的に確保する「最後の砦」

防衛省の目的はシンプルで、「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ」 ことです。官庁訪問で「防衛省は国を守る最後の砦」と聞き、私はそのカッコ よさに背中を押され入省を決めました。日本を取り巻く安全保障環境は厳 しさを増し、「最後の砦」は受け身ではなく、国の安全を能動的に確保しにい くことで激動の世界に対応しています。そこには過去の踏襲だけでは済ま ない想像力・創造力が求められます。私は、防衛省内の総合調整を担う防衛 政策課で危機管理担当として、北朝鮮のミサイル発射や在外邦人の安全と いった課題に対し、各部署を俯瞰し、防衛省、そして政府全体が一つのチー ムとして対応していくための「仕切り」を行っています。

モチベーション高く学び続けられる環境

中東での邦人等輸送の際には、関係者がランクを問わずに一つの部屋で「気 づき」を共有することで、全員が不安のない運用を目指しました。「心理的安 全性」が確保され、納得のいくプロセスで意思決定がされて大きな組織が一 つの目標に向かって動いていくときに、自分も日本の安全保障に貢献して いるというやりがいを感じます。

また、事案が生じた際には、高官のところに駆け込み、全体像がわからない 中で一報をします。このような場合の高官の冷静な判断やコメントには幅 広い知識と経験に裏付けられた含蓄と説得力があり、常に刺激を受けてい ます。目標をもって「学び続けるモチベーション」を保てる環境なので、入省 して後悔はありません。

日本の防衛政策の企画・立案・総合調整を担う

私が所属する防衛政策課は、日々変化する安全保障環境のなかで日本の平 和と独立を守るために防衛政策の企画・立案・総合調整を担っています。 2022年に策定された戦略3文書のような将来を見据えた防衛の基本方針や 戦略の策定に際し、省全体の中心的な役割を果たしています。方針の策定だ けでなく、3文書に基づく事業進捗状況等を把握して最適化を図りながら、 省全体を統括し、防衛力の抜本的強化を強力に推進しています。そのなかで 私は所属班の係員として、このような政策にかかわる様々な案件について、 他課・他省庁との調整業務やロジ面でのサポートを担当しています。

平和を守るという正解のない問いに挑む

担当業務のなかでも、特にテレビや新聞等で取り上げられるような会議に 携わり、無事終えられたときには大きなやりがいを感じています。また防衛 政策の総合調整をするという課の特性から外交、防衛に加え、経済安保、技 術、サイバー、情報など、様々な分野の専門家と連携しながら業務を進める ため、日々、多角的な視点や知識に触れられる環境で、1年目ながら緊張感 を持って刺激のある毎日を過ごしています。防衛省・自衛隊で、日々変化す る安全保障環境のなかで「わが国の平和と安全を如何に守り抜くか」という 正解のない問いについて一緒に考えてみませんか。

P E A C E TIME



プライベートのコミュニケーションも重要です

平素からのコミュニケーションで関係性を作っておくのは仕事もプライベート も一緒。仕事だけに打ち込むのは時代遅れです。オフのときは我が家の小さな怪 獣×2と全力で遊び、彼らが寝静まったあとには妻と乾杯するのをささやかな楽 しみにしています。

M YTIME



温泉やサウナでリラックス

普段は課室でパソコンと向き合う時間が多いため、休日は外出が多いです。旅行 が趣味で、長期連休には友人と遠出して温泉やサウナでリラックスして充実した 週末を過ごしています。日常生活では味わえないような経験ができ、様々な文化 への理解も深まるきっかけにもなります。

統合幕僚監部 首席参事官付 係員 2024年入省 技術系(施設系)



「政」と「軍」の関係に正解なし

英国のサッチャー首相は、難解・詳細な軍事的決定についても最終決定権を握り、このような強力な戦争指導がフォークランド戦争での勝利に不可欠だったと評価されています。他方、米国のG・H・W・ブッシュ大統領は、大きな方向性を示すだけで軍人に広範な裁量を与え、こうした大統領から軍人への権限委任が湾岸戦争の勝因と考える者もいます。民主主義国家において、「政」が「軍」を統制する方法に単純な「正解」はありません。我が国においても、安全保障政策を遂行する上では、官邸、内閣官房・外務省等の関係省庁、防衛政策局、各幕僚監部等の様々なアクターが存在し、それぞれの立場からニーズや意向が示され、政策立案過程での検討を経て、最終的に総理・防衛大臣の決定により実行されていきます。

政策とオペレーションを繋ぐ要、首席参事官付の挑戦

陸・海・空自衛隊の一体的運用を担う自衛官主体の統合幕僚監部において、 首席参事官付は、事務官の持つ政策的・法的知見を活かし、自衛隊の運用に 関する総理・防衛大臣の決定を補佐しています。私が担当する海上自衛隊の オペレーションに関しては、例えば政策部局の意向を軍事的リソースを踏 まえ調整する、また自衛隊の軍事合理性に基づく要望を政治的・法的な実現 可能性を踏まえ検討する、さらに警戒監視中に確認した外国軍の特異事象 を意志決定者(周辺)や政策部局に報告する、このようにして総理・防衛大臣 の判断材料を提供し、政策的見地と軍事的見地をバランスよく整合させる ことに努めています。政治指導者と自衛隊の運用の現場の双方と関わる緊 張感の高い職場ですが、刺激的で充実した日々を過ごしています。

自衛隊の実運用を支える安全保障の最前線

「速報 北朝鮮ミサイル発射」、この一文をニュースで見たことがない人はいないでしょう。我々、統合幕僚監部首席参事官付はこのニュースの裏で駆け回っています。弾道ミサイル対処の他、対領空侵犯措置、警戒監視活動、PKO、在外邦人等輸送、海賊対処など自衛隊の実運用を円滑に、遅滞なく実施できるよう、対外説明や関係機関と調整し現場を支える、潤滑油のような役割を首席参事官付は担っています。刻一刻と目まぐるしく変化していく日本周辺の安全保障環境に対峙し、1年目ながらなかなか味わうことができない刺激的な毎日を過ごしております。

安全保障を支える緊張感と達成感

私は課の窓口として日々課内外と調整する、いわゆる交通整理のような役割を担っています。1年目ではありますが、課内の交通整理がうまくできないと、我が国の安全保障に直結する重要な業務が滞ったり、無駄な調整作業が発生したりするため、非常に重要な仕事です。印象的だったのは、防衛省の対外公表に際し、より適切な発信のため、文言の細部について、関係機関とギリギリまで調整を続けたことです。時間の制約もある中、緊張感のある作業ですが、無事に対外公表されたときの達成感は計りしれません。窓口業務においては、こうした課同士、他省庁との調整の結節点となることもあり、政策調整の現場を目の当たりにすることができます。

M Y **P** E A C E **T** I M E



留学中は野球観戦と旅行でアメリカを満喫

所属部署に着任する前に米国に留学していた際は、大学院の授業の合間に、よく 趣味の野球観戦に行っていました。また、長期休暇中は米国各地を旅行していま した。





休日は同期と旅行で充実した日々

大学生の頃から安全保障分野に興味を持っていたため、首席参事官付で安全保障の最前線に立つことができ、刺激的な日々を送っています。またプライベートでも課業後は同期と食事に行ったり、休日は旅行に行ったりと充実した毎日を過ごしています。



情報収集•分析

- ■電波情報・画像情報・地理情報・ 警戒監視情報・公刊情報の収集
- ●オールソース分析

国外の 情報機関との 情報交換

- ●インテリジェンスコミュニティ との協力
- ●国外の情報機関との連携
- ●防衛駐在官の派遣

ユーザーへの 情報提供

- ●情報ニーズの把握
- ●適時・適切な情報支援
- ●対外的な情報発信

インテリジェンス 機能の強化

- ●インテリジェンスサイクルの活性化
- ●最新技術・新たな手法の活用
- ●認知領域を含む情報戦への対応





世界情勢に対応し情報本部の能力強化を推進

ロシアのウクライナ侵略、中国の軍事活動の活発化、北朝鮮による弾道ミサ イルの発射、混乱が続く中東など、世界情勢は想像を上回るスピードで変貌 を遂げています。そのような状況において、私が所属する調査課情報運用企 画室は、日本最大の情報機関である情報本部の能力強化に向けた企画立案、 突発的な事案を含めた我が国周辺の軍事情勢に関する情報の総理大臣や防 衛大臣をはじめとする政策決定者への報告、国外の情報機関との交流など の幅広い業務を担当しています。私は、同室の先任部員(他省庁で言う筆頭 課長補佐)として、これらの業務を取りまとめつつ、自分自身も報告や交流 などの業務に従事する、プレイングマネージャーのような役割を担ってい ます。

防衛政策を支えるオールソース分析の最前線

適切な防衛政策の立案や防衛力整備のためには、正しい情勢の認識が必要 です。その点で調査課の仕事は、目の前で起きている、または起きようとし ている事象が明日、来月、来年、はたまた10年後にどのような意味を持つの か、画像・電波・人的・公刊情報等のあらゆる情報源を活用したオールソース 分析を実施し、その結果を適切な形で政策決定者に提供するという、外から は見えづらいですが根幹となる仕事です。また、対象となるフィールドも、 陸海空のみならず宇宙やサイバー、認知領域にいたるまで拡大を続けてい ます。残念ながらインテリジェンスの世界はその性質上、なかなかその詳細 をここでお話しすることはできません。是非、防衛省でご自身の目で確かめ てみてください。

戦略情報分析室で変化する安全保障環境に対応

戦略情報分析室は、公刊情報等のオープンソースをもとに国際軍事情勢の 情報収集・分析を行っています。日々の業務では、激しく変化する国際軍事 情勢に対して、防衛省がどう認識するかを考えながら、情勢資料の作成や対 外説明などに取り組んでいます。政策部局や運用部局に必要な情報を届け るべく、注目すべき事象が生じた場合には、速やかに概要を資料にまとめる ことも重要な役割の一つです。複雑化する安全保障環境への情勢認識を省 内に伝えることで、我が国の安全保障に関わる様々な意思決定が適切に行 われるように情報面でサポートするということが大きなミッションです。 情勢資料の作成にあたっては、読み手に応じて作り方を変えるのも面白い ポイントだと感じています。

欧州情勢を分析し防衛協力の未来を支える

私は、室内で総括の役割をしつつ、NATO・EUを含む欧州諸国の担当として 情報収集・分析に励んでいます。今年は、英国での政権交代やNATO首脳会議 など注目のトピックがあったので、それらを踏まえて防衛白書の執筆や情 勢資料の作成に努めています。欧州は国が多い一方で、我が国との防衛協 力・交流の観点で関心が高まっており、担当としての責任の重さを実感しな がら業務に従事しています。何が起こるかわからない国際軍事情勢に対応 するのは大変ですが、防衛省のインテリジェンスの司令塔である調査課の一 員として、日々そのダイナミズムを味わえることに面白さを感じています。 情勢分析のプレーヤーとして働いてみたい方は、ぜひ一度お越しください。

MY TIME



リラックスと交流で視野を広げる貴重なひととき

土日や平日の就業時間後には、リラックスしたり、家族や学生時代の友人との時 間を過ごしています。特に、友人との時間は、思い出話に花を咲かせるだけではな く、業種や業界を超えて様々な話を聞くことができる貴重な時間です。

M Y



楽しく働くために、心身を癒やす

映画を観たり、本を読んだり、温泉・サウナで体を癒やしたり、スポーツ観戦など 気分をリフレッシュできる時間を過ごすようにしています。健康な心と体がなけ れば楽しく働くこともできませんので、休日の過ごし方をほどほどに大事にして

自衛隊の活動を支える防衛力の整備 WISSION 戦い方の様相が大きく変化する中、新しい戦い方に対応できるかどうかが 今後の防衛力を構築する上で大きな課題です。 航空侵攻・海上侵攻・着上陸侵攻といった伝統的なものに加えて、 精密打撃能力が向上したミサイルによる大規模な攻撃、情報戦を含む ハイブリッド戦の展開、宇宙・サイバー・電磁波の領域や無人アセットを用いた 非対称的な攻撃等を組み合わせた新しい戦い方が顕在化しています。 こうした新しい戦い方に対応していくために、 自衛隊に必要な「人」や「モノ」、自衛隊の体制を整備します。

遠距離から 侵攻戦力を 阻止・排除

人的基盤の強化

- ●スタンド・オフ防衛能力
- ●統合防空ミサイル防衛能力

●自衛隊の精強性の確保

●教育・研究の充実

●女性の活躍推進

●働き方改革

Tips:我が国の防衛上必要な能力・機能

領域を横断して 優越を獲得し、 非対称的な 優勢を確保

- ●無人アセット防衛能力
- ●領域横断作戦能力
- ●指揮統制·情報関連機能

防衛施設の グランド デザイン

- ●自衛隊の活動基盤の整備
- ●司令部等の地下化や構造強化
- ●既存施設の再配置・集約化
- ●防衛施設の強靭化への投資を加速

①スタンド・オフ防衛能力 ②統合防空ミサイル防衛能力 ③無人アセット防衛能力 ④領域横断作戦能力 ⑤指揮統制・情報関連機能 ⑥機動展開能力・国民保護 ⑦持続性・強靱性



将来の防衛力を設計し自衛隊の「構え」を作り上げる

防衛省の最大の使命である日本の平和と独立を守るためには、必要な自衛隊の「構え」を作り上げ、我が国に対する武力攻撃への抑止力を高めることが重要です。また、抑止が破れた場合であっても、脅威に対処し勝てる自衛隊でなければなりません。防衛計画課は、5年後、10年後を見据えた防衛力の最適な設計を自衛官とともに描き、とりまとめ、予算化し、その実現を図る中心的な役割を担っています。

防衛計画課で航空防衛力の整備を担当して1年以上が経ちました。限られた財源、安全保障環境の変化や技術の進展を踏まえつつ、将来の空自の戦い方や、戦闘機やミサイルから練習機まで、空自全体の装備品の取得計画について、自衛官と妥協なき議論を日々積み重ねています。

空自パイロット教育の未来を日米で描く

空自のパイロット教育は、今、大きな転換期を迎えており、初等練習機T-7、中等練習機T-4の後継機検討を一気通貫に進めています。令和6年7月には、日米首脳会談で設置に合意した、米空軍との作業部会をペンタゴンにおいて開催。今や米空軍も巻き込んだ壮大な構想が進んでいます。

多数の省内関係部署をリードしながら実施する米側との調整には困難が伴います。時差もあり、深夜11時からの打ち合わせもしばしば。それでも、部員として本事業を担うのは自分しかいません。事業を活かすも殺すも自分次第、これまで培ってきた役人としての力量を総動員し、将来のパイロットの卵たちのため、ひいては将来の航空防衛力のため、全力で業務に取り組んでいます。



整備計画局 施設整備官付 整備第1班 防衛部員 2012年入省 技術系(施設系)

自衛隊の活動を支える多様な施設の整備を担当

自衛隊と言うと、多くの人は迷彩服を着た自衛官や戦車、戦闘機などの装備品をイメージすると思います。ただ、自衛官が活動したり装備品の能力を十分に発揮するには、様々な「施設」が必要です。自衛官には、仕事をする庁舎や射場などの訓練場といったものだけでなく、駐屯地・基地で生活するための隊舎、浴場、食堂、厚生施設や体を鍛えるための体育館やプール、運動場なども必要です。装備品にも、戦車などを整備する整備場、戦闘機などを飛ばす滑走路等の飛行場施設、護衛艦を停泊させる桟橋や護岸、燃料タンクや給油施設、新型装備品を研究する研究施設など挙げればきりがないほどの施設が必要になります。それ以外にも、自衛隊には衛生機能があるので病院や防衛大学校のような学校なども有しています。

施設整備官はこのような施設の整備を担当しており、その中でも、私の所属する整備第1班は、最も施設の多い陸上自衛隊を主に担当しています。

新駐屯地整備で日本の平和を支えるプロジェクト

現在、佐賀空港西側に、固定翼機と回転翼機の両方の性質を併せ持つV-22 オスプレイを配備するための新たな駐屯地の整備を進めていますが、私は 主にこの新駐屯地整備プロジェクトのマネジメントを行っています。この プロジェクトは、様々な現場の制約の中で、約34万㎡の土地に駐機場や格納 庫、隊庁舎などの多数の施設を極めて短期間で整備する必要のある困難な プロジェクトです。このようなプロジェクトを進める中では様々な苦労も ありますが、実際に施設が出来上がっていく中で「ものづくり」の達成感だ けでなく、日本の平和を作っているという他では味わえない達成感・喜びを 目に見える形で感じることができます。

剣友たちとともに剣の道で切磋琢磨!

週末は、学生時代から続けている剣道の稽古に励んでいます。実は自衛隊でも剣道が盛んなことをご存知でしょうか。陸海空の自衛隊員が一堂に会してその腕を競う全国自衛隊剣道大会に、市ヶ谷勤務の自衛官の皆さんと参加するのが毎年の楽しみになっています。





家族と楽しむ休日、子供たちとリフレッシュ

休日は、3人の子供たちといろいろなところに遊びに行っています。SLに乗りに行ったり、動物と触れ合える公園に行ったりしていますが、鬼ごっこは子供より先にばててしまうので、かくれんぽにしてもらうように子供たちを毎回説得しています。



自衛隊や在日米軍の 安定的な運用のために MISSION 多種多様な施策を実施し、 国民や地域社会の理解と協力を得るための地道な努力を積み重ねることで、 自衛隊や在日米軍の円滑な運用を可能にします。

防衛施設と 周辺地域との 調和

- ●施設の設置や航空機の運用などに伴う 騒音などの障害の防止、軽減、緩和
- ●地域住民の生活環境の安定や向上に 資する事業等への助成

コミュニティ

- ●日頃からの積極的な広報・説明
- ●地方公共団体、警察・消防等の 関係機関との連携の強化

在日米軍の 駐留を支える ための施策の 実施

- ●米軍再編事業の着実な実施
 - ●在日米軍で勤務する従業員の労務管理
 - ●在日米軍施設の整備
 - ●訓練や訓練移転等の円滑な実施

環境問題• 気候変動問題 への対応

地域

との連携

- ●自衛隊・在日米軍に起因する 環境問題と地域社会との調和
- ●気候変動対策と防衛力強化の両立





地方協力局 総務課 総括班 防衛部員 2015年入省 技術系(施設系)

沖縄の基地負担軽減と防衛体制強化を推進

自衛隊や在日米軍が円滑に活動できるよう、地元に対する説明責任を果た し、地元の要望や情勢に応じた施策を打ち出し、地元の協力を得ること。地 方協力局の業務である「地元調整」は、一見地味に思えるかもしれませんが、 防衛政策を現実にアウトプットする上で重要な役割を担っています。 沖縄協力課のミッションは、沖縄における基地負担の軽減を図るべく、米軍 再編プロジェクトを推進するとともに、南西地域における防衛体制の強化 や日米共同訓練の実施といった三文書の施策を実現すべく、沖縄において 地元調整を行うことです。

国民、自衛隊、在日米軍の三者間の架け橋

いわば、国民、自衛隊、在日米軍の三者間の架け橋となり、これらの業務を進 めていくために必要なのは、何よりも粘り強さです。私が担当している複数 の再編プロジェクトでは、様々な課題解決のために、多様な地元自治体、多 様な米軍種と膝を突き合わせて議論し、相手の価値観を理解し、関係者全員 が合意できるラインを見極める必要があります。市ヶ谷だけではなく、時に 沖縄で地元の皆様と議論し、時に米国まで出向いて米軍と議論する。こうし た粘り強い調整が実を結び、プロジェクトが着実に前進していく姿を見る と、非常にやりがいを感じます。

地域と防衛をつなぎ重要課題に取り組む

私の所属する地方協力局は、自衛隊・在日米軍の活動と地域社会との調和を 図り、防衛力を発揮する基盤を整備することを使命としています。その筆頭 課に位置付けられる総務課は、局内各課が持つ重要課題に俯瞰的な立場か ら関与し、総合的な調整やリソースの整備を行っています。私自身はPFOS 等含有泡消火薬剤が及ぼす周辺環境への影響や、神奈川県内の米軍施設の 整理・返還事業といった重要課題の総合調整を担当しています。

地域の不安に寄り添い自衛隊と社会の調和を探る

自衛隊・在日米軍の活動は様々な形で地域社会へ影響を与えます。航空機の 飛行に伴う騒音や海上の運用に伴う漁業制限はその最たるものですが、私 が担当するPFOSは、かつて油火災の消火に使用される泡消火薬剤に含まれ ていたことから周辺環境の汚染が懸念されています。地域住民の不安に向 き合い、自衛隊・在日米軍と地域社会との調和を目指す調整は容易なことで はありませんが、関係者とともに知恵を絞り、納得できる落としどころを探 るプロセスは大変クリエイティブで楽しいものです。

MY P E A C E TIME



家族中心の毎日、料理とゴルフでリフレッシュ

子どもの習い事の送り迎えなど、家族中心の生活を送っています。最近は料理に もはまって、YouTubeを見ながら色々なものを作っては家族に食べてもらってい ます。時間が許せば、友人とゴルフに行ってリフレッシュをしています!

M YTIME



家族の絆が安全保障を支える

家庭内安全保障あっての国家安全保障。私が学生時代に現役職員が言った言葉で す。日々の難しい課題に取り組むためにも、休日は家族と旅行に行くなどリフ レッシュしています。写真は民族共生象徴空間ウポポイのトゥレッポん。可愛い

戦略的な装備政策の展開 MISSION 防衛生産・技術基盤の強化、新たな外交ツールとしての諸外国との 防衛装備・技術協力の推進や、装備調達の最適化など、 自由な発想と多角的な視野で装備政策を企画立案し、実施します。

防衛生産基盤 の強化

- ●企業の競争力・技術力の維持・強化
- ●強靭なサプライチェーンの構築

防衛技術基盤 の強化

- ●集中的な研究開発投資
- ●研究開発の高速化
- ●革新的な民生先端技術の 発掘•育成•取込

諸外国との 防衛装備• 技術協力

- ●同盟国・同志国との実効的な連携の構築
 - 防衛装備移転の推進
- 国際共同研究開発

装備調達の 最適化

- ●プロジェクト管理
- ●調達制度の見直し



装備品の全ライフサイクルを支える

現在、私は自衛隊の使用する装備品等に関するプロジェクト管理の業務を行っています。 自衛隊の使用する装備品等は幅広く、被服や弾薬、艦船や航空機など多岐にわたるのです が、私はその中でも通信や電子関連器材、指揮統制システム等のシステム、そして電子戦 関連器材を担当しています。ただ、通信電子関係の器材と一言で言っても実はその幅も広 く、レーダーのような大型のものから、個人携帯の無線機などの小型のものまで幅広いア イテムが含まれており、私の業務は皆さんが想像する"プロジェクト管理"とは少し異な る部分があるかもしれません。私自身、この部署に来る前は戦闘機など大きな事業を管理 することがプロジェクト管理だと考えていましたが、装備品を自衛隊が必要な時に何の 憂いもなく使える状態にしておく、これこそがプロジェクト管理だと理解するようにな りました。装備品等は買ってくるだけでは終了せず、自衛隊が使用することでその性能を 発揮するものです。各装備品等について開発から製造、運用、そして廃棄まで幅広い知識 を求められ、また技術の進展の早い分野でもあることから日々勉強を求められますが、技 術的な知識に触れることも多く、前向きに取り組んでいます。

装備移転で安全保障に貢献

また、プロジェクト管理に関連し、担当する装備品等に関する 防衛装備・技術協力、いわゆる装備移転に関する業務も行って います。特に、フィリピンへの警戒管制レーダーの移転事業を 担当しており、円滑な事業の進展のため、製造企業やフィリピ ン空軍と調整を実施し業務を前に進めています。大局的な視点 では装備移転は日本の安全保障の推進に資するものとして説 明・推進されますが、実際に担当として事業に飛び込んでみる と、そういった大きなやりがいだけでなく、実際に移転したも のを使うフィリピン空軍の担当者たちの顔が見え、人と人との つながりが重要なんだということを肌で感じることができ、こ れも大きなモチベーションになることを実感しています。



防衛装備庁 装備政策部 装備政策課 防衛産業政策室 主任 2021年入省 技術系(装備系)

防衛産業を支えスタートアップ参入を促進

装備政策課は、防衛装備庁の司令塔として、防衛装備品の開発・生産・運用を 支える防衛生産・技術基盤の維持・強化に取り組んでいます。私が所属する 防衛産業政策室では、企業の防衛産業への参入促進やサプライチェーンの 維持・強化など、様々な施策を推進しています。また、防衛産業の課題認識を 官民で共有するため、防衛省と契約実績が豊富なプライム企業から、防衛産 業への参入を目指す中小企業まで、幅広い企業との意見交換を重ねていま

私は、スタートアップ企業に向けた施策として、政府によるスタートアップ 企業等との柔軟な調達を可能にする仕組みである「スタートアップ技術提 案評価方式」の防衛省での運用に向けた制度設計に携わっています。

柔軟な調達で新たな可能性を開拓

近年、無人機やAIなどの技術進歩は著しく、スタートアップ企業が持つ民生 の先端技術を防衛装備品に取り込むことは、新しい戦い方に必要不可欠で す。しかし、スタートアップ企業は大手企業と比べて防衛省・自衛隊との契 約実績が乏しく、その参入促進が喫緊の課題となっています。そこで、防衛 省・自衛隊のニーズとスタートアップ企業の技術シーズをマッチングさせ る取組みや支援策の強化、柔軟な調達方式の導入など、経済産業省や内閣府 をはじめとする関係省庁と連携して様々な施策を推進しています。

こうした取組みは一朝一夕とはいかず、関係各所との粘り強い調整が求め られますが、とてもクリエイティブでチャレンジングな業務であり、やりが いを感じています。

海外出張で装備移転を推進し、視野を広げる

装備移転業務を行うため、海外出張に行く機会が増えました。もちろん担当の仕 事はしっかりとしますが、所掌にとらわれず広い分野の知識を得られるように心 がけています。(写真は海外製のフライトシミュレーター体験です)



筋トレで自分を磨き、達成感と成長を実感

私は筋トレが趣味で、ジムに通っています。土日がメインですが、平日も時間に余 裕がある日には帰宅途中にジムに寄り、ベンチプレスやスクワットなどのメ ニューを行ってから帰宅します。

トレーニングで持ち上がる重量が以前よりも上がっていると、筋力がついたこと を実感できるので、この上ない達成感があります。



●業□次期戦闘機 特集2 次期戦闘機の日英伊共同開発はいよいよ本格始動へ。 何世代にもわたる世界の安定と繁栄のために。 防衛省では、2035年頃に退役を開始するF-2戦闘機の後継機として、 イギリス、イタリアとともに次期戦闘機の共同開発を進めています。 我が国の防衛に必要不可欠な航空優勢を将来にわたって担保することを目的とするこの取り組みに携わっている3名が、 その思いややりがいについて語りました。

Programme Management Division, GIGO 2011年入省 事務系

職員D

職員E

一次期戦闘機の日英伊共同開発について、その 背景と、皆さんの業務について教えてください。

職員D:現在、防衛装備品の高度化・高額化が進み、開発のコストやリスクが増大する中にあって、戦闘機を含め優秀な装備品を取得するためには、一国のみならずパートナー国と協力して資金・技術をそれぞれが供与して開発する方式が国際的に採られています。このように国際共同開発・生産が主流化する中、次期戦闘機の開発を進めるに際して、要求性能の実現可能性・スケジュール・コストなどの様々な観点から、

英伊との国際共同開発が最適な選択肢であると判断し、取り組みが始まりました。この取り組みをGCAP (Global Combat Air Programme)と呼んでいます。

Commercial & Finance Division, GIGO

2012年入省 事務系

職員E: GCAPを実施するに当たり、次期戦闘機の開発、量産、輸出などを含む事業の円滑な実施のためには、日英伊間での効率的な協業体制、具体的には日英伊の政府間の協業及び3か国の政府と民間企業との間の協業を一元的に管理・運営する体制を構築することが不可欠です。この一元的な管理・運営を行う主体が、国際機関であるGIGO (GCAP International

Government Organisation)です。GIGOは2024年12月に設立され、本部は英国に設置、初代トップには日本人が就任しました。私は日本にいた時から、このGIGOの活動に必要な予算の確保や資金管理のあり方に関する検討、財政規則の策定などに取り組んでおり、現在はGIGOに派遣されて、国際機関の職員として引き続き業務に当たっています。

防衛装備庁 プロジェクト管理部

事業監理官(次期戦闘機担当)付

2017年入省 技術系(装備系)

事業監理官補佐心得

職員F

職員F:私はGIGOの調達に関する内部規定や契約条項の作成などの契約に関する業務に携わっています。当然のことですが国によって法制度や商習慣が異なるため、日本と英伊との規

則の違いを理解し3か国が合意できる規則を作成し、GIGOだけでなく国内手続きとの関係で問題がないかも考慮する必要もあります。この国際機関の規則策定を通して、過去に配属された調達管理部や調達事業部で得た日本国内の経験・知見の重要性を実感しています。このプロジェクトを成功させ、次期戦闘機の共同開発を着実に進めたいという思いを英伊と共有し、一歩ずつ同じ道を歩んでいる手応えがあります。

職員D:GIGOが設立されたことによって、共同開発はGIGOが主体となって進めていく体制となりました。私もGIGO設立と同時に英国に赴任し、GIGOの職員として勤務しています。 GIGO設立までは、日本の防衛省の立場でGCAPが我が国にとって意義ある事業となるようプログラムの進捗管理を行っていましたが、現在は日本だけの代弁者ではなく、GIGOの立場で日英伊3か国全体として最適な事業となるよう、プログラム全体を進捗管理しています。

一一プロジェクトに携わるやりがいについて教えてください。

職員D:四面を海に囲まれた島国であり、東西南北それぞれ約3,000kmに及ぶ我が国領域は広範囲にわたり多くの島しょを有し、そこには守り抜くべき国民の生命・身体・財産・領土・領海・領空及び各種資源が存在しています。こうした地理的特性を持つ我が国の安全保障環境から、次期戦闘機については、攻撃をできる限り洋上・遠方で阻止することができる優れた空対空性能を重視しています。このような我が国が求める主要な要求性能をすべて満たすことに加え、将来にわたって適時・適切な改修の自由を確保できること、そして、高い即応性を実現する国内生産・技術基盤を確保することが重要であり、こうした壮大な目的を持ったプロジェクトに携われることは、大きなやりがいです。

職員F: このプロジェクトに参画する直前まで、 私は内閣官房に出向していました。出向が 終わって防衛省に戻ってきたところ、この次期 戦闘機の日英伊共同開発プロジェクトが想定以上に大規模なものになっていることに驚きました。更にGIGOという新しい国際機関が設立されるということで、スケールの大きさを実感しています。日々の業務を着実に進めながら、GIGO設立や国際共同開発といった大きな転換期に携われることに、大きな責任とやりがいを感じています。

――DさんとEさんは、ご夫婦でGIGOに派遣されていると聞きました。GIGOでの共働きについてどのように思われますか?

職員E:私はこれまで10年近く、市ヶ谷で同じ

防衛省職員の夫と二人三脚で子育てとの両立 を図りながら、インテリジェンスや装備協力な どの分野で一からプロジェクトを創り上げて いく経験をさせていただきましたが、今回は家 族で英国に拠点を移して、立ち上がったばかり の国際機関で夫婦揃ってこの壮大なGCAPの中 核を担うということで、これほどまでに大きな 挑戦は初めてです。渡英するまでは不安もあり ましたが、日英伊から派遣された優秀で常に前 向きな仲間たちに恵まれ、仕事面は早速順調な スタートを切ることができています。また、生 活も現地での充実したサポートのおかげでス ムーズに立ち上げることができました。英国で も日本にいた時と変わらず、夫婦で勤務時間や 場所を柔軟に工夫して、子供たちと過ごす時間 を大切にしながらしっかりと仕事に打ち込む ことができています。ちなみに、我が家の子供 たちはまだ小学生ですが、世界各国から来たク ラスメイトたちとすぐに打ち解けて、ロンドン の恵まれた教育環境の中で英国ならではのス クールライフを満喫しています。

職員D:私もこれまで、妻と家事・育児を分担しながら様々な部署で勤務してきましたが、国際機関で共働きという状況は想像もしていませんでした。仕事も生活も何もかもが初めてで、こんな挑戦的な機会をいただけて感謝していると同時に、防衛省職員の勤務環境の多様化が進んでいると感じます。

──防衛省で働く魅力、求める人材についてお聞かせください。

職員D:次期戦闘機の開発に限らず、防衛省のあらゆる取り組みは、我が国を守るという究極の目的につながるものです。広い視野を持って、国にしかできない仕事に貢献できることが、防衛省で働く魅力でしょう。このような広い視野、問題意識を持った方に入省していただきたいと考えていますし、私自身、そうした志のもとで防衛省に入省しました。

職員F:私は子供の頃に阪神淡路大震災を経験 し、民間企業へ就職後に東日本大震災を経験し ました。大人になってから再度大きな震災を経 験したことで、子供の頃には気づかなかった社 会の動きや災害対応に係る様々な仕事がある ことを知り、防衛省に関心を持ち、キャリア チェンジしたという経緯があります。自然災害 などの有事の際には、自衛官や消防士、警察官 といった、まさに日本の安心・安全を守るイン フラである人々が業務に従事する様子を目に することになります。なくてはならない存在な のは間違いありませんが、防衛省を含めて、こ のような業務を担う人々が目立たない状況で あることが、平和ということだと思います。 GCAPのような仕事だけでなく、見えないとこ ろで社会を支える仕事もあるので、色々なこと に関心のある方に期待したいと思います。

職員E: 未知の世界でチャレンジし続けることができる環境こそが、まさに防衛省で働く大きな魅力だと思います。新しいことを始めるのが好きで、環境が変わろうと臆することなく飛び込んでいける好奇心やチャレンジ精神の強い方にとってとても楽しい仕事だと思います。

職員D:2035年は決して遠い未来ではありませんが、一方でその頃の安全保障環境がどうなっているかは想像もつきません。何があっても我が国を守り抜く、そのための防衛力の抜本的強化への取り組みを、これから入省される皆さんとともに進めていきたいと思います。



総 合 職 (事務系) の キ ャ リ ア ス テ ー ジ

入省後の1~2年目には、本省内部部局などで行政官としての基礎的な行政スキルを習得します。

3年目には自衛隊の司令部などで勤務しつつ、様々な研修を通じて自衛隊が活動する現場を実践的に学びます。

その後、係長を経験したのち、他省庁の課長補佐に相当する「防衛部員」として

政策の企画・立案を自ら主導する役割を担います。

また、海外留学や出向など、多様な経験を積む機会も広がっています。

私は、いま、防衛部員として、在日米軍基地の再編事業の一つに携わっています。地元や米軍等、多くの関係者が絡む極めて複雑な業務ですが、我が国の安全保障を支える自衛隊・米軍等の活動の基盤を安定的に維持するためにも、地元の負担軽減は極めて重要です。事業を着実に進め、地元の負担軽減を実現するために、私は、政策的な観点から、実現可能なアプローチを考え、時には省内外の関係者とも粘り強く調整しながら、事業に係る種々の課題に取り組んでいます。



整備計画局 提供施設計画官付 防衛部員 2018年入省 事務系

日本の国益のため、世界を相手に渡り合いたい、歴史に残るような場面に当事者として立ち会いたい、というのが防衛省を志した理由でした。 現在のポジションでは、厳しくなる安全保障環境を念頭に、抑止力・対処力の向上のため、訓練などでいかなる一手を繰り出すか、大臣レベルでどのような発信をするか、同盟国や有志国国防省のカウンターパートとの真剣な調整が続きます。

また、日米 $(+\alpha)$ で、歴史的な大臣会合の開催を手掛けつつ、長く維持されてきた現状を力で変更する試みを許さないための方策も考える日々です。刺激と充実感には事欠かない生活が送れています。



防衛政策局 日米防衛協力課 課長 2000年入省 事務系

課長級

計務

部隊勤務

私のいる運用基盤課は、自衛隊の運用に必要な基盤の整備を担っています。「基盤」と一言でいってもその内容は幅広く、訓練海域・空域の確保、民間空港・港湾の利用、風力発電と自衛隊の活動との調和など多岐に渡ります。すなわち、他省庁や地方自治体、事業者など様々な主体と調整し、自衛隊が活動する基盤となる環境や制度を確保することが運用基盤課の任務と言えるでしょう。

その中で、私は係員として他部署との連絡窓口を担い、課内の上司たちがスムーズに仕事できるよう努めています。特に、今年は防衛・風力発電調整法案の国会審議があり、法律制定の一端に関わることができました。入省してすぐに法案成立の瞬間に立ち会えたことは、印象深い経験になりました。



防衛政策局 運用基盤課 係員 2024年入省 事務系

3年目は現場を学ぶタイミングです。約1年間、日本各地の陸海空自 衛隊や地方防衛局で勤務しながら、防衛省・自衛隊の活動現場につい て見識を深めます。

私は海上自衛隊の横須賀地方総監部で、海自の組織文化や部隊運用、装備品等について学んでいます。時には実際に1週間以上艦艇に乗艦し、任務行動や訓練を間近で見学したり、自衛官の方々と寝食を共にしたりすることもあります。

現場についての解像度を高められるこの期間は、政策立案をはじめとする今後の業務に大いに役立つと考えています。また、厳しい安全保障環境に最前線で向き合う方々が持っている情勢認識や覚悟に触れることは、事務官としての自らの役割や責任に改めて向き合うきっかけになります。



海上自衛隊 横須賀地方総監部防衛部第3幕僚室 企画調整専門官 2022年入省 事務系

班長級

私の所属する部署は、次期戦闘機の日英伊共同事業(GCAP)を担当しており、2035年度までにF-2戦闘機の後継の開発を目指しています。特に私は、政策・制度面の担当として、日英伊政府間の効率的な協業体制を確立するために設置される国際機関(GIGO)に係る業務を行っています。英伊の国防省職員とは対面やビデオ会議で日々協議を行い三か国としての方針を定め、また、国内では他省庁や関連企業といった幅広い相手と調整を行い、事業を進めています。GCAPでは、事務官・技官・自衛官と専門的な知見を持った職員が集い、また、官民オールジャパンでタフな交渉を含め様々な課題に取り組んでいます。この事業の一員として、新しいチャレンジに日々挑戦し、成長できることにやりがいを感じています。



防衛装備庁 プロジェクト管理部 事業監理官(次期戦闘機担当)付 事業監理官補佐 2016年入省 事務系

大臣官房の主要なミッションは、防衛省の政策立案が円滑に行われるよう、全体へ目配りしながら調整を行うことです。その中でも法令審査は、法律制定等を行う課室をサポートし、ひいては防衛政策の立案・実行という目的が十分に果たせるよう、法令のエキスパートかつ「縁の下の力持ち」として無くてはならない役割を果たしています。このように、一つの課室の円滑な運営が最終的には実効的な防衛政策の実現に繋がることを日々実感しつつ、室内の案件を俯瞰しての進捗管理やマネジメントを担う先任部員として、入省してからの様々な経験を活かすことができています。



大臣官房 文書課 法令審査 先任部員 2011年入省 事務系

DEFENSE TECHNICAL OFFICIAL

施設系技官の役割

平和という「究極のインフラ(社会基盤)」を整備する

駐屯地・港湾・飛行場等の「防衛施設」は、自衛隊の活動基盤であり、

国民の当たり前の毎日を明日につなぐ「最後の砦」として必須です。

施設系技官は、土木・建築・機械・電気などの工学系出身の職員が、技術的知見を活かして、

強靭な防衛施設の確実な整備(建設)や安定的な運用に必要な政策の企画・立案を行っています。

防衛施設の整備(建設)





周辺地域との調和



在日米軍の再編



CAREER PATH



(本省/地方防衛局部長)

※管理職として、より責任ある立場へ



(本省/地方防衛局課長) ※政策の企画立案及び班の運営



(本省)

※政策の企画立案の中心



(本省/地方防衛局)
※政策立案や危機管

※政策立案や危機管理に関する行政実務を経験 防衛施設建設工事に係る専門的技術を涵養

施設系職員のキャリアパス

入省1年目は、本省内部部局等において行政官として 実務を経験します。2年目以降、地方防衛局等の勤務を 交えながら専門的技術力と行政感覚をバランスよく 培います。その後、他省庁の課長補佐に相当する「防衛 部員」となり、自らのイニシアチブで政策の企画・立案 を行うことになります。また、留学や出向はもちろん、 在外公館勤務など多様な経験を積むことが可能です。 DEFENSE TECHNICAL OFFICIAL

装備系技官の役割

戦略的な「装備政策」を展開する

戦闘機・艦船・戦車等の「防衛装備品」は、自衛隊の能力発揮の根幹です。

装備系技官は、技術的な知見を背景に、装備品等に係る各種政策の企画・立案などを担っています。

様々な知識を柔軟に活用して、装備品の取得、防衛生産・技術基盤の維持・強化、国際装備協力などに携わります。

装備品の取得

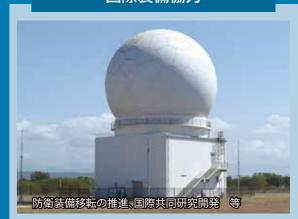




防衛生産・技術基盤の維持・強化







CAREER PATH



(本省/防衛装備庁)

※管理職として、より責任ある立場へ



(本省/防衛装備庁) ※政策の企画立案及び班の運営



(本省/防衛装備庁) ※政策の企画立案の中心



(本省/防衛装備庁)

※政策立案や危機管理に関する行政実務を経験 装備品に関する政策や実務を担当

装備系職員のキャリアパス

入省1年目は、本省内部部局等において行政官として 実務を経験します。2年目以降、本省内部部局や防衛装 備庁において装備品に関する政策や専門的な知識を 活用する実務経験を積みながら行政感覚を養います。 その後、他省庁の課長補佐に相当する「防衛部員」とな り、自らのイニシアチブで政策の企画・立案を行うこ とになります。また、海外・国内留学や出向など多様な 経験を積むことが可能です。

DEFENSE TECHNICAL OFFICIAL

01

施設系技官の紹介



専門知識と長期的視点で米軍施設の整理・統合を推進し、 我が国の平和と安全に貢献する

専門知識や創意工夫で 大規模かつ重要なプロジェクトに挑む

提供施設計画官では、在日米軍に提供する施設を建設するための事務を行っています。特に、米軍再編は、米軍施設を整理・統合し、日米同盟の抑止力・対処力の強化と地元の負担軽減を実現するといった大きなテーマです。その中で、私は現在、沖縄の普天間飛行場の返還に向けた代替施設の建設事業に携わり、主に予算に関する計画立案や総合調整を担当しています。大規模かつ重要なプロジェクトで、関係者も多く、決して簡単な仕事ではありませんが、事業の着実な実現に向けて、職員一人一人が自らが持つ専門知識や創意工夫を発揮することができる魅力的な部署です。

様々な施設の建設を通じて 国の防衛に貢献する

防衛省では、飛行場や港湾施設、訓練施設、火薬庫、レーダーサイト、さらに は隊員が生活・勤務する建物、運動施設などの施設の建設に携わることができます。私は、国の防衛といった未知の分野で、このような大規模かつ多種 多様な事業に自分がどこまで貢献できるのか、挑戦しがいのある仕事であると思い、入省を決めました。実際にこれらの事業に取り組む中では、建設 エンジニアとしての知識だけではなく、総合的な調整・コミュニケーション 能力や、予算・契約の制度、法令、組織マネジメントへの理解が求められます。こうした学びや経験が自らの成長に繋がり、また、施設の建設を通じて 国の防衛に貢献していることが実感できる仕事です。



安全への情熱と探究力で自衛隊施設の 「施設防護」を推進する

有事やテロに備え「施設防護」を調査・研究し 自衛隊施設の建設基準を策定する

わが国を取り巻く安全保障環境が厳しくなる中、自衛隊施設は有事やテロによる爆発、狙撃といった脅威にさらされることも想定し、整備しなくてはなりません。私は、自衛隊施設がそういった脅威にさらされても、施設内の人員や機材を守るだけでなく機能を維持するための技術である「施設防護」に関する調査や研究を行い、施設防護に関する基準を策定する業務を担当しています。日々多様化していく自衛隊施設への脅威に対応するため、国内だけでなく海外の技術や施設防護に活用できるような新技術の情報収集も欠かせません。

ハイスピードで変化する安全保障環境の中 自衛隊施設に求められる技術を模索する

施設防護の分野では、大学で専攻した建築の知識だけでなく、爆発や衝撃、 電磁波といった新しい分野の知識も必要になり、新しい知識や知見を吸収 する毎日で充実した日々を送っています。

有事やテロを想定し、強靭な自衛隊施設を整備することは、自衛隊の基盤となる機能の維持・確保に直結しており、抑止力の一端を担っています。極めて速いスピードで変化する安全保障環境の中で、自衛隊施設に求められる技術とは何か、一緒に議論できる日を楽しみにしています。

M Y **P** E A C E **T** I M E



休日は家族と運動三昧、地元イベントで多彩な競技を満喫

休日は基本的に家族と過ごしており、最近は、市民プールや運動公園に出かけて、一緒に運動したりしています。この日は、自治体のイベントに参加し、陸上競技場のトラックを走ったり、弓道やクライミングなどの競技を体験するなどして、楽しく過ごしました。





夏休みに初の米国旅行、MLB観戦!

休暇の時は、旅行や好きな音楽グループのコンサートに行ったり、ジムに行って体を動かしたりして、リフレッシュしています。今年の夏季休暇は初めてアメリカへ旅行し、アメリカの大学院に留学中の同期とMLB観戦をしてきました!

DEFENSE TECHNICAL OFFICIAL

02

装備系技官の紹介





防衛装備庁 装備政策部 装備政策課 防衛生産基盤強化法室長 2003年入省 技術系(装備系)



宇宙政策を担い、 未来の防衛基盤を構築する

装備品の生産基盤の未来を担う 装備品製造の効率化やノウハウの継承を推進する

装備品の安定製造と供給網の強靭化を実現し、 生産基盤を支える

令和5年10月から防衛生産基盤強化法が施行されました。この法律は、企業が装備品等の安定的な製造等の確保を目的とした様々な取組みを行うためのものです。

私が所属する防衛生産基盤強化法室は、この法律に基づきサプライチェーンに関する調査や供給網強靭化、製造工程効率化、サイバーセキュリティ強化及び事業継承等に関する事業を担当する部署です。私は、防衛生産基盤強化法室長として、10名超の室員とともに①事業を実施するための予算要求、②制度の理解促進のための広報活動、③企業から提出を受けた事業に関する計画の審査・認定手続き、④事業を実施するにあたっての調達手続き等多くの業務を進めています。

装備品製造に関わる企業の課題を解決し、 装備品の未来を守る

装備品の製造には多くの企業が携わっています。そして必ず何らかの課題を持っています。設備が古くなり整備に時間を取られる、特定の職人だよりになっている、サイバーセキュリティが心配だ、残念ながら事業を続けることができない、といったものです。

私達の仕事は、これら企業が将来にわたりしつかりと装備品の製造に取り 組めるよう、企業の相談を受けながら、製造の標準化・効率化やサイバーセ キュリティ強化につながる投資を進める一方で、残念ながら仕事を続ける ことができなくなった企業の製造ノウハウを他の企業につなぐことです。 防衛省での就職を検討している皆さん、このような仕事に興味はありませ んか。

"普通の毎日"に欠かせないながら、 急激に変化する宇宙空間

宇宙空間は、通信や測位といった分野で日常生活の基盤として欠かせない存在となっているとともに、我が国の防衛にとっても領域横断作戦能力を遂行する上で死活的に重要となっています。また、多数の衛星を連携させて運用するコンステレーションの登場やスペースデブリの急増などにより、近年特に大きな変化が生じている場所でもあります。私は現在、戦略企画参事官付において防衛省の宇宙政策や宇宙事業に関する業務に取り組んでおり、大学時代に専攻した航空宇宙工学や、入省後の留学先で学んだ地球観測に関する経験を活かしながら勤務しています。

新しい分野で、常に新しい挑戦を

宇宙関連業務では専門性が重要となる一方、他省庁、外国政府、国内外企業など、多くの人たちとのやり取りがあり、非常に広い視野が必要です。学生時代やこれまでの勤務で得た経験では事足りないことも多く、勉強することばかりですが、その分、前進と新しい発見の連続であり、多様なバックグラウンドを持つ人たちとの関わり合いで、常に自身の世界が広がっているように思います。宇宙事業においては、様々な衛星やロケットなどについて詳細を知ることができることに加え、宇宙政策においては、国や世界といった単位で俯瞰的に宇宙をとらえることができ、とても充実した業務だと感じています。

M Y **P** E A C F **T** I M E



子供と時間と思い出を共有する貴重な時間を過ごす

休日は古本屋やリサイクルショップをまわることが多いです。子供と一緒に古いCD を探索するためです。子供とは、当時のCDのデザインを見ながら、自分の子供時代のエピソードを交えた会話が弾みます。私にとって楽しく貴重なひと時です。

M Y **P** E A C E **T** I M E

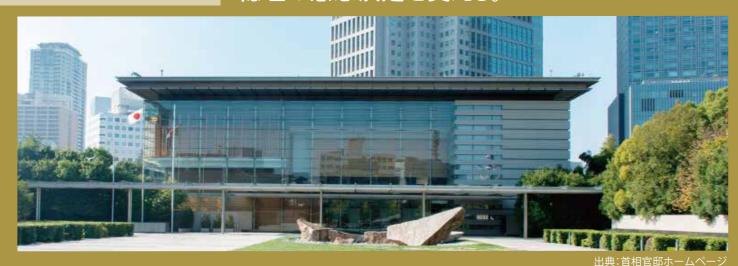


ワークライフバランスを通じて、子とともに成長

出産後から、ワークライフバランスに係る様々な制度を利用しています。保育園の送り迎えや子供の体調不良などで退庁時間や勤務場所などに制約はありますが、テレワークも活用して公私のバランスを取りつつ、子供とともに自身も成長しているような気がします。

SPECIAL INTERVIEW 03

より広い視野のもと、自衛隊の最高指揮官である 総理の意思決定を支える。



総理大臣官邸にて総理秘書官付職員として勤務するGさん。

防衛省を離れて働いてはいるものの、

日本の平和に尽くすという志に変わりはない。

総理秘書官付職員としてのやりがいや使命などについて語る。

内閣総理大臣秘書官付

職員G



総理秘書官付職員の業務について教えて ください。

現在の私の職場である総理官邸は内閣総理大臣や内閣官房長官の執務場所であり、我が国の最高意思決定がなされる空間でもあります。その総理大臣の意思決定を下支えすべく、財務・厚労・経産・警察・外務・防衛の各省から派遣された6人の事務担当の秘書官が、重要政策の立案や国会答弁などの総合調整を行っています。総理秘書官付は、そうした総理秘書官の一挙手一投足を支える"黒子"です。そのため24時間365日、いかなる時であっても待機態勢を維持し、必要に応じ直ちに登庁し対応に当たります。表舞台で国民の皆さまの目に触れる機会はほとんどありませんが、同じく各省から集まった秘書官付が一体となって総理室をサポートしています。

業務の基本構造はシンプルであり、防衛省と総理の間に入り、双方の間で生じる様々な調整を一元的に取り持ちます。「伝令係か…」とガッカリされるかもしれませんが、これが容易なことではありません。自衛隊の最高指揮官でもある総理の一つ一つの発言・指示は非常に重く、万が一にもコミュニケーションの取り違いは許されません。しかし、時に一刻を争う中において、これを迅速かつ正確に実現するためには、防衛省の立場はもちろん、総理の平素からのご関心や考え方、その時々の「政治的コンテ

クスト」に深く通じることが不可欠です。この「政治的コンテクスト」というのは、単に安全保障政策だけを追うだけでは足りず、財政・経済、社会保障等をめぐる国策全体の議論に広くアンテナを張らなければ、見誤り得るものです。こうした目配りは、各省庁を母体とする総理秘書官が集まる総理室だからこそ可能となるものであり、そこに総理秘書官の存在意義があるといえます。このほか、国会における総理答弁や、総理が出席する自衛隊観閲式や防衛大学校の卒業式で発信する訓示について、総理とやり取りを重ね練り上げていくことも業務の一つです。

――そのような業務に就いたことによってご 自身の中に変化は生まれましたか。

入省以来、自分が与えられた担当業務の範囲で 最大限のパフォーマンスを発揮することに注 力してきました。しかし、総理秘書官付に就い て以来、政治的ダイナミズムの中にあって、国 策の中で有るべき安全保障政策のバランスを どう追求すべきか考えるようになりました。こ れは、とりもなおさず、防衛省・自衛隊の取組が 国民にどのように受け止められているかを客 観視することでもあります。そうした全体を俯 瞰する力は間違いなく身につきました。

着任前にある方が私に「ここでしか見られない 景色がある」とアドバイスしてくださいました が、今になってその意味を実感しています。

――業務のやりがいや醍醐味はいかがですか。

防衛力の抜本的強化も追い風となり、今や、防

衛省・自衛隊の一挙手一投足が政治的にも注目

されています。この期待に少なからず応えられ たのが、2024年の能登震災における自衛隊派 遣であったと感じています。人命救助のフェー ズなど、自衛隊が文字通り事態を切り拓くこと を求められた局面で、最高指揮官である総理の 意思決定を直接サポートすることができ、この ポストの存在意義を改めて実感できました。 同時に、ミスが許されないプレッシャーも日々 感じています。たとえば、総理外遊中は、秘書官 が総理に随行しているため、私は国内に残り危 機管理上の連絡ハブとなりますが、外遊先での 首脳会談直前にして、北朝鮮がミサイルを発射 したことがあります。我が国への安全保障への 直接的な影響如何にせよ、万が一にも、総理に 一報が上がらぬまま会談を迎えるようなこと があれば、他国から見て、我が国の指揮系統、情 報収集能力に疑義が呈され得ます。まさに一秒 を争う事態ですが、同時に正確性も犠牲にでき

首相官邸の長い歴史にとって、防衛省の総理秘書官はまだまだ「新参者」かもしれません。しかし、ここまでの道のりは山あり谷ありで、市ヶ

早鐘でした。

ません。さすがに緊張で冷や汗が流れ、心臓は

谷本省を含めた先人達の努力があって到達できた道です。政治的ダイナミズムの中、難しい 舵取りも求められますが、防衛省の「代表」としての矜持を持って、課せられた使命に向き合う 毎日です。

――防衛省入省から今までを振り返って、どのように感じていますか。

一口に安全保障といっても様々なアプローチ がありますが、学生時代に国際政治学を学び、 伝統的安全保障の重要性を認識した私は、防衛 省を志しました。運用レベルで地に足のついた 取組がしたいというのもありましたし、自衛隊 という実動組織に魅力を感じたのもありまし た。ただ、入省時は集団的自衛権が物議を醸し ていた時期であり、若かった私は、抽象的な議 論の応酬に空を掴むような思いで、時折、何の ために働いているのか自分を見失いました。そ んな時に配属されたのが航空自衛隊の現場の 部隊でした。ここで実際に自衛官の方々と一年 を共にしたことで、誰のために仕事をするの か、初めて実感として腹落ちしたのです。自衛 官は命をかけて国を守る。我々はその自衛官を 守り、なすべきことを共に実現する。ですから 今も、仕事で進退窮まるとその時の自衛官の顔 が浮かびます。彼らを裏切ることは決してでき ない、そう思います。

一一防衛省職員を目指す皆さんに、メッセージ をお願いします。

私が入省して10年ちょっとの期間で、戦略環境は技術革新によって劇的に変化しました。長射程・精密打撃、サイバー、宇宙、電磁波、AI等により戦闘様相は複雑化し、脅威も多様化しています。かつては有事と平時の二元論でしたが、今ではその境界も曖昧になりました。こうした中、総合的な国力を活用した戦略的アプローチが求められ、今や、産官学の協調や多国間協力の実現は所与の条件です。誤解を恐れずに言うなら、今後、安全保障はより高度な知的ゲームに変化していくことは間違いありません。この変化に知的興奮を覚え、自分自身を成長させられる人材に期待しています。

同時に、徹底した現実主義者であることも重要です。平和安全法制や防衛力の抜本的強化もあり、我が国が取り得る手段・リソースは質量ともに確実に広がりました。しかし、当たり前ですが、それは何をやってもいいということではありません。創意工夫は大切ですが、常に現実に即したものでなければなりません。愚直なまでに現実を直視し、冷静かつ客観的にアプローチできる人材であることが、今後ますます重要になってくると思います。

職員Gの経歴

2014年 入省、防衛政策局防衛政策

2015年 大臣官房文書課(法令審査)

2017年 防衛装備庁装備政策部装備政策語

2018年 防衛装備庁技術戦略部

10年 - 郊営(苗国)

)21年 整備計画局防衛計画課 業務計画第3班 部員

2023年 内閣総理大臣秘書官付(現職)



防衛省では、国内外のさまざまな勤務地や関連機関で活躍する職員がいます。また、

専門知識を深めるために国内外へ留学している職員も数多く在籍しています。

職員たちからのメッセージをご紹介します。

海外職員

海外留学





国内留学





出向職員





地方勤務

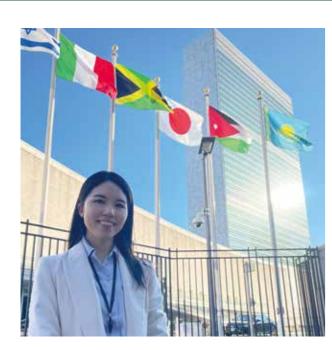


北関東防衛局

STAFF MESSAGE **1**

国際連合

国際連合日本政府代表部 一等書記官 2013年入省 事務系



国連代表部で、日本の立場を世界に発信。 国際平和の実現に向け奮闘する

私は外務省に出向し、ニューヨーク市にある国連代表部で勤務しています。 国連総会や安全保障理事会に出席して日本の立場を表明し、決議案の採択 に向けて各国の代表部と交渉するのが仕事です。

大学生の頃、一種の憧れを持って国連本部ツアーに参加しましたが、約15年 後の現在、国連の現場で実務にあたり、当時考えていたほど世界は単純では ないと思い知らされています。例えば、私が担当する中東地域の情勢を目の 当たりにし、我が国は安保理任期中から緊張緩和や停戦を呼びかけていま すが、各国が一致した行動を取り現実の悲劇を食い止めることは容易では ありません。それでも、国際社会の平和と安定のために何ができるのか。学 生の頃から変わらぬ問題意識を持ち、仕事に打ち込んでいます。

生活面では、物価が高騰しているニューヨーク市で小さな子供2人を育てな がら働く暮らしは決して楽ではありませんが、現地の保育園にたくましく 通う子供たちの姿に励まされています。



英国留学で国家安全保障の新たな視点を学び、 異文化の中で自己を磨く日々

自分が関与する政策を学術的視点からも考察できる能力を身に付けられな いか――戦略3文書の策定等に携わった経験からそのような考えに至り、 現在は英国キングスカレッジロンドンの修士課程で、国際関係・戦略・情報 分析・軍事といった切り口から国家安全保障について学んでいます。実務か ら得た具体的な問題意識をもって、「戦争」や「平和」という古来の各国共通 の課題についてアカデミアで積み上げられてきた議論を学び、同分野の最 前線で活躍してきた実務家や国際色豊かなクラスメイトたちとの意見交換 を行うことで、防衛省勤務で培ってきた知見を肉付けし、磨きをかけられる よう努力する日々です。

また、異国での生活は、日本との違いに気付きを得るだけでなく、社会的マ イノリティに属することで、かえって自己を客観視しやすいと感じます。円 安サバイバルの中で自活力を鍛えつつ、この機会に一人の人間としても大 いに成長したいと考えています。

STAFF MESSAGE ():

STAFF MESSAGE 02

早稲田大学

防衛装備庁 調達管理部 原価管理官付

2013年入省 技術系(装備系)



経営理論を政策に活かす

私は早稲田大学ビジネススクールの経営管理を学ぶプログラムに在籍して います。その目的は、企業の意思決定、行動、成果の力学を学び、防衛産業に ついて理解を深め、防衛装備行政に役立てることです。また、防衛省と経営 学者との接点をつくって、広げることも私の役割です。

意外に思うかもしれませんが、経営学は防衛行政と深い関わりを持ってい ます。例えば、経営戦略や組織戦略、管理会計には、軍事分野を起源とし、ビ ジネス分野に転用され、競争の激しいビジネスの世界で、磨かれたものが多 くあります。そのため、ビジネスと防衛行政は共通点を多く持ち、防衛省と いう大きな組織の理解にも示唆を与えてくれます。

ここでは、経営者、各士業、金融機関、製造業、サービス業出身者など様々な バックグラウンドと問題意識を持った社会人が集まり、学部時代とは違っ た新鮮さがあります。

日々学ぶ経営理論を防衛行政にどう応用できるかを常に考え、学びを実務 に活かしていきたいと考えています。

企画調整専門官

2022年入省 事務系

陸上総隊司令部 運用部防衛課防衛班

外務省 総合外交政策局 国連政策課 2020年入省 事務系



12回目の安保理任期 国連平和構築に貢献

私は現在、外務省に出向しており、主に安保理や国連平和構築委員会など国 連の政治分野における政策の企画・立案に携わっています。日本は2023年か ら2年間、安保理非常任理事国を務め、私は東西アフリカ地域議題の担当と して、国連日本政府代表部とも連携しながら理事国としての意思決定に携 わりました。安保理は大国の思惑が交錯する極めて政治的な場です。複雑な 国際政治のダイナミズムを感じつつ、理事国任期中にしか経験することの できない業務にも多々携わり、大変やりがいを感じました。ウクライナや中 東に国際社会の関心が集まりがちですが、安保理会合の議題の約4割はア フリカです。日本は国連平和構築委員会も活用して、紛争に後戻りしない持 続的な平和の実現に向けた取組に貢献しています。国連平和構築に関する 政策全般の担当として、南スーダン等への出張機会にも恵まれ、現地の状況 や日本の貢献を肌で感じてきました。出向先での経験も糧に今後も職務に 励んでいきたいです。



陸上総隊司令部で 現場の最前線を体感

私は今、本省を離れ、部隊の現状を学ぶため、陸上総隊司令部で勤務をして います。陸上総隊司令部は、全国の陸上自衛隊の運用を統括する司令部であ り、災害派遣や在外邦人等の輸送等の任務を行っています。

私は、部隊や訓練の研修を通じて現場を体感することに加え、幕僚の一員と して研究開発業務を担当しており、現場部隊のニーズに応える装備品を速 やかに導入するための方策を立案しています。部隊の切迫した要望を素早 く実現しなければ、時代の変化に対応できないという危機感を最前線で感 じながら、陸上自衛隊のリアルを学んでいます。

こうした現場に浸かることで得られる経験は、今後様々な政策分野に携わ るであろう自分自身の問題意識の「きっかけ」になると確信しています。

STAFF MESSAGE 05

出向職員

内閣府

内閣府 政策統括官(経済安全保障担当)付

2020年入省 技術系(装備系)



経済と安全保障を結び付け 国力強化に挑む最前線

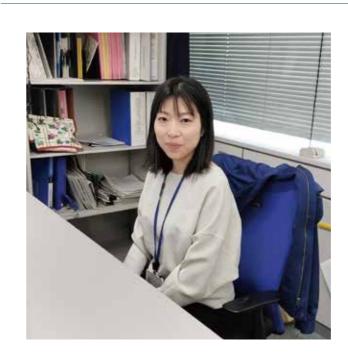
2022年に策定された国家安全保障戦略においても、我が国の安全保障に関 わる国力の要素として経済力や技術力が挙げられているように、安全保障 の確保のため、経済的手段が一層必要とされています。このような状況の 下、経済安全保障推進法が制定され、私はそれに基づく施策の実施を担当し ています。サプライチェーンの脆弱性、重要インフラへの脅威の増大、先端 技術をめぐる主導権争い等の課題に対応するため、経済官庁をはじめとし た関係省庁・外国政府機関等とコミュニケーションを取りながら法律に基 づいて政策を進めるという、この組織における業務の醍醐味を味わいなが ら、充実した毎日を送っています。また、安全保障分野の裾野が経済分野に 急速に拡大するとともに、安全保障に関する知見を活かすことのできる フィールドも広がっていることを日々実感しています。

STAFF MESSAGE 07

地方勤務

北関東防衛局

北関東防衛局 調達部 建築課 建築課長 2008年入省 技術系(施設系)



安全保障を支える施設整備を 快適かつ安全な環境へ再構築

地方防衛局である北関東防衛局では、1都7県において、自治体や住民との 調整、米軍との調整、自衛隊施設等の建設工事を担っています。

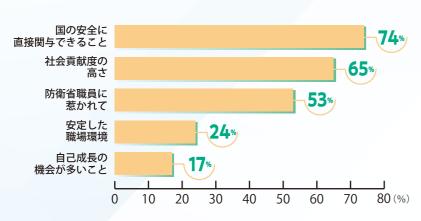
私が勤務している調達部は、建設工事を担当しています。調達部には何度か 勤務しておりますが、安全保障環境の変化、防衛政策における建設事業の重 要性の高まり、建設業界の民需の高まり、技術者や労働者の高齢化による技 術者不足など、建設業界、防衛省の建設事業を取り巻く状況が目まぐるしく 変化しています。防衛省に入省して、さまざまな機会に自衛隊施設を見て、 壮大な施設や装備品を見てこういうものが安全保障を支えているのかと感 じると同時に、こんなにも老朽化した施設があるのかという衝撃を覚えま した。今、まさにその転換期にあり、施設に対する予算が増大しており、たく さんの施設を整備する必要があります。あの時の衝撃から、少しでも快適な 施設で勤務できるようにという入省からの思いを忘れず、業務に携わって います。

若手職員アンケート

防衛省で働く職員はどんな人? みなさんの疑問にお答えするために、 若手職員のアンケートをご紹介します。



入省の決め手はなんですか?



私は国際関係に関心が高いこと、日 本の安全保障環境が変化している ことから、日本と各国との防衛協力 の一助となりたいと思い入省しま した。防衛省職員のタフさと前向き さも魅力的に感じました。

> 防衛装備庁 国際装備課 2024年入省 事務系

> > 外国政府との調整が

職場の雰囲気を教えてください

時には緊張感やスピード感を求め られる業務の多い中でも、職場のコ ミュニケーションも活発で、働きや すい職場という意見が多くありま した。



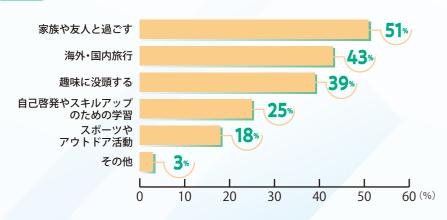
整備計画局 防衛計画課 2024年入省 技術系(装備系) 緊急事態対応のときには、日本の安全保障を守るた めに、全員が一致団結して1分1秒を争う事態に真 剣に立ち向かう一方で、そうでないときには、冗談 を言いながら仕事するような和気あいあいとした 雰囲気の職場です。

多く、日常的に英語が 飛び交っており、とて も国際的な職場だと 感じます。

冷静な頭脳を持ち一見 クールでも、熱いハー トを持った職員が多 く、信頼して働くこと のできる職場です!

とても魅力的な上司がそろっています。なんでも質 問しやすい上司、部下の提案を実現しようと上層部 に掛け合ってくれる上司、問題が起きた時には自ら が矢面に立って部下を守る上司。最強の仲間たちと 共に困難に立ち向かうことができます。

休暇の過ごし方を教えてください



長期休暇も取りやすい職場で、オン オフをしっかりつけている意見が 多かったです。家族と過ごしたり、 趣味に没頭したりとプライベート も充実しているようです。



防衛政策局 日米防衛協力課 2024年入省 技術系(施設系)



scene 01 出勤

scene 02

業務



ONE DAY SCHEDULE

朝の出勤時間は業務状況に合わせて フレキシブルに設定できます。

混雑を避け無理のない時間で出勤できると体力的な消費を抑 えられ、自分の生活リズムをコントロール出来ているという 実感が仕事へのモチベーションを高めてくれるので、日々前 向きな気持ちで登庁できています。

防衛省の仕事のここが面白い!



知らないことばかりなので日々勉強を しています。入省当初は苦労していた案 件も、数をこなしたり周囲の人に質問し たりすることで数か月後に円滑にこな せるようになったときには、自分の成長 を実感し面白いと思いました。





国会答弁を作成し、自分が体裁などを整 え印刷した紙を、大臣や総理が持って話 していると思うと、やりがいを感じま す。官邸や議員会館、在日米軍基地に行 く機会があるのは他では経験できない ことだと思います。



世界中の国々との防衛協力・交流を所掌している 部署で総括調整業務に携わっています。

防衛協力・交流全般や複数の国に跨る案件を扱う中で、それぞ れの国に独特な政治事情、考え方に触れることが多く、その度 に自分の視野が大きく広がる実感があります。

scene 03 打合せ



周囲とのコミュニケーションの中で 仕事を仕上げていく過程にやりがいを感じます。

総括調整を担う仕事の中で、一人で完結するものはありませ ん。目的、問題意識、及びタイムラインをしっかりとすり合わ せた上で仕事がスムーズに進んでいくと、人と関わって仕事 をしている醍醐味だなと感じます。

scene 04 休憩



休息も仕事の内、メリハリをつけて 業務の生産性も向上させます。

休憩時間にオフィスから離れ、気が置けない仲間たちと話す ことでリフレッシュしています。違う部署での話を聞く中で 得られた新たな発想を持ち帰り、自分の業務に活かすことも あります。

未来の後輩へのメッセージ



防衛省で扱える仕事は国内で間違いな く唯一無二です。このパンフを読んで少 しでも「この仕事いいな!」と思うこと があれば是非市ヶ谷の門を叩いてくだ さい。安全保障環境が激動するこの時代 に、皆さんと共に仕事に取り組む日々を 心待ちにしています。



日本の国力は低下が懸念され、安全保障 環境もひっ迫する激動の時代ですが、こ れに悲嘆せず、だからこそ活躍が求めら れる防衛省職員としての経験は人生を 豊かにすると思います。是非門をたたい てみてください。

ワークライフバランスを支える制度

WORK & LIFE BALANCE

年次休暇(20日/年)

4月1日採用の場合、採用の年は15日。 残日数は翌年に繰越(20日まで)。時間単位で取得可能。

特別休暇

年末年始/夏季/結婚/忌引き/人間ドック 検診 等

GW・夏季・年末年始などに合わせた年次休暇の取得を推奨し、長期で休暇が取れるように取り組んでいます!

出産に関する休暇

産前・産後特別休暇/配偶者の出産特別休暇/妊産婦の保健指導・健康診断のための特別休暇/ 妊娠中の休息・補食のための特別休暇/通勤緩和のための特別休暇/出生サポート(不妊治療に係る通院等)のための特別休暇

育児参加のための休暇・休業

育児休業/育児短時間勤務/育児時間/育児参加のための特別休暇/ 保育時間確保のための特別休暇/子の看護のための特別休暇

その他の制度

介護休暇/配偶者同行休業/フレックスタイム制/ テレワーク育児時間/育児短時間勤務/早出遅出勤務/超過勤務の制限 等





制度利用職員の声

ライフステージに合わせて柔軟な働き方が可能です

現在、私は約1年間の育児休業を取得しています。妊娠中、つわりなどの体調不良を抱 えながら仕事をこなせるか心配でした。しかし、体調が優れない際には、テレワークを 行い、通勤の負担を減らして自宅で安静になりながら仕事に集中することができまし た。また、「妊娠中の職員の通勤緩和のための特別休暇」を利用し、毎朝1時間登庁時 間を遅らせることにより、ラッシュを避けてストレスなく通勤することができました。

このような出産をサポートする制度に身体面で助けられたのはもちろんのこと、当時の 上司が「どんな仕事よりも、あなた自身の身体と新しい命を守ることを優先してね」と いつも声をかけてくれていたことが精神面での大きな支えになりました。

仕事復帰後は、育児時間やフレックスタイム制などの様々な制度を活用して、自分に 合った育児と仕事のバランスを図っていきつつ、防衛省の職員が、それぞれのライフス テージに応じて、柔軟で多様な勤務ができるような環境がより一層整備されるよう貢献 してまいります。



大臣官房 秘書課 2014年入省 事務系

採用チームから皆さんへ

「不変の使命、無限の可能性」

現在の日本は、先人たちの不断の努力の上に存在している。 この国の歴史を紡ぐために欠かせないもの、それが安全保障だ。

「我が国の平和と独立を守り、国の安全を保つ」

採用実績

この「不変の使命」を果たすため、防衛省は、日本の最後の砦として存在している。 ふと世界に目を向けると、国際社会が混沌に包まれていることが分かるだろう。 VUCA と言われるこの時代を、今、我々は生きている。

こうした中、平和な日常を守り抜くことは、決して容易ではない。

この先、あなたが歩む道は、かつてない困難が立ちはだかるかもしれない。その道は、華やかなものではないかもしれない。 しかし、悲嘆に暮れている時間はない。この重責を果たす誰かが、この国には必要だ。

あなたの「無限の可能性」を賭けるに足る、崇高な使命がここにはある。 その使命をともに果たすための仲間がここにはいる。 防衛省は、 その誰かになる志と覚悟を胸に秘めた皆さんをお待ちしています。



		2025年	2024年	2023年	2022年	2021年	2020年
事務系	総合職院卒者 総合職大卒程度 合計 (うち女性)	4 15 19(7)	0 16 16 (6)	1 14 15 (6)	4 12 16 (6)	3 15 18 (7)	1 13 14 (6)
施設系	総合職院卒者 総合職大卒程度 合計(うち女性)	2 4 6(1)	3 5 8 (2)	7 0 7 (1)	3 4 7 (1)	2 3 5 (3)	2 4 6 (0)
装備系	総合職院卒者 総合職大卒程度 合計(うち女性)	3 2 5(1)	4 2 6 (1)	3 1 4 (3)	5 0 5 (2)	1 3 4 (1)	3 1 4 (1)

※2025年は採用見込み

※国家公務員採用試験の区分別の採用数であり最終学歴とは異なります

採用情報はこちらへ



防衛省 〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町 5-1 TEL.03-3268-3111 (代表) https://www.mod.go.jp/j/saiyou/